

文教大学

～ オンデマンド型授業の実践 ～

文教大学では、講師の映像・音声とスライドや文書ファイルを組み合わせた教材と学生の理解度把握のための小クイズ問題による e - ラーニングを構築しており、単位認定授業に導入している。教材は、講義内容に応じて講師の映像、板書と音声、スライドと音声などのバリエーションがあり、学生からの要望を取り入れながら随時更新している。最近では、授業に関連する資料映像の希望が多いとのこと。

1 . e - ラーニングの実施目的 :

- ・ネットワークを介した学生との質疑応答などインタラクティブ性を確保するため
- ・小テストなどによる学習履歴の把握や学習進度に応じた課題提示など自学自習支援のため

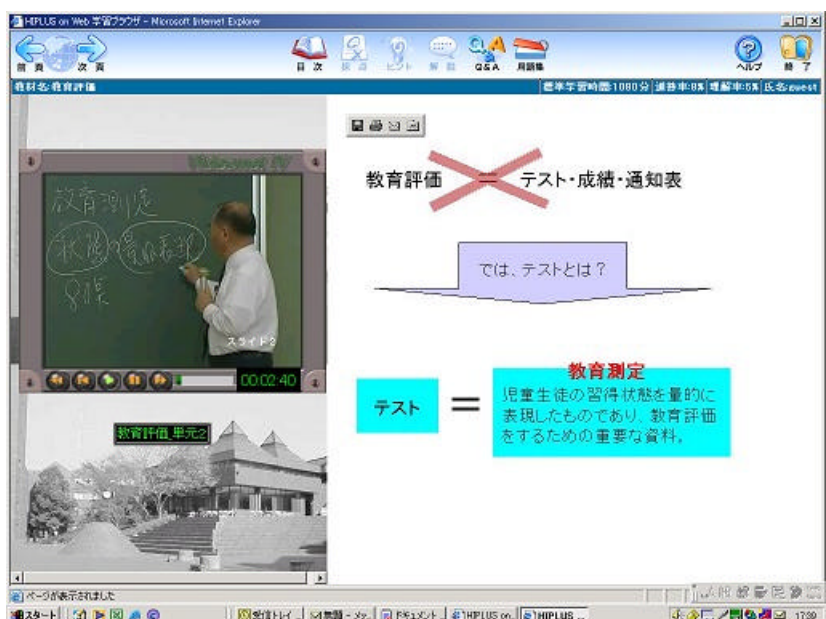
2 . e - ラーニングの実施規模

実施の規模 学部・学科単位に実施
 e - ラーニングを活用する科目数 . . . 6 科目
 対象となる学生数 3,800人(単位認定科目 460人)

3 . 授業での位置付け

科目によって異なった位置付けとなっている。

- (1) e - ラーニングの中で実施している小クイズの得点を期末試験の成績に加味している。
- (2) e - ラーニングでのクイズは成績に加味せず、学期中に数回のレポートを提出させて、それで成績評価している。
- (3) 事前学習として利用している e - ラーニングでは、小クイズの提出期限を対面授業前に設けることで、事前学習を徹底させている。



なお、単位認定をしていないもの(資格取得講座や学長の講義など)については、成績評価はしていない。キャンパス全学生がいつでも学習できるように登録している。

4. 代表的な授業科目での活用内容

- (1) 科目名 『データ科学』
- (2) 受講学生数 60人
- (3) 具体的な活用状況

実習に関連ある知識やスキルを身につけるためにe-ラーニングによる事前学習を行わせている。e-ラーニングの中ではテーマごとに小クイズが課され、その得点は成績に加味される。また、何回かにわけて行われるグループ学習の前日までに、そこで必要とされるテーマの小クイズに回答期限を設けておき、事前学習の徹底を図っている。



5. e-ラーニングの活用により期待している効果

大人数の授業になればなるほど、一人ひとりの学生の理解度や学習意欲を把握することが難しくなるが、e-ラーニングによって一人ひとりの学習状況を把握して、理解度に応じた教育プログラムを提供することで、一人ひとりを伸ばす効果を期待している。また、オンデマンド型で実施しているのは、わからない部分を繰り返し学習できることを期待している。これらは学力の分散化への対応策と捉えている。教員が振り向けることのできる時間内で、効果的な教育（学生個々の理解度に対応した教育サービスの向上）を行えることを期待している。

6. 大学の支援内容

大学の組織的な支援としては、まず、教材作成担当者からe-ラーニングを利用した場合に展開できる新しい教育方法や学習方法その他の留意点を説明し、それを踏まえて教員が教案を作成した上で、情報センターが教材作成を行っている。また、LMS (Learning Management System) を利用して、データベースに蓄積されている学習履歴を分析している。



7. 今後の方針、拡大・改善の計画

e-ラーニングでのTA的な支援ができる担当者（事務職員、学生、業務委託）を配置する（平成15年度）。e-ラーニングと教員が行う授業展開の組み合わせ方の研究を継続し、大学内の統一したe-ラーニングガイドラインを発行する（平成15年度）。

対象科目の拡大については、単位認定科目で、年間10科目の新設を目標としている。遠方にある単位互換協定校との間でe-ラーニングによる単位認定を行う。また、情報センターの事務部門の業務分掌を、コンピュータ・ネットワークの運用支援から、学習支援にシフトする（平成16年度開始）。

《問い合わせ先》

文教大学 湘南情報センター 情報処理課長 寺田 靖男 氏
TEL:0467-53-2111